

電池切れホテル駆け込み ■ ヘルパー口論

波乱と感謝 呼吸器の旅

交通事故で体が不自由になり、人工呼吸器で生活する兵庫県尼崎市の池田英樹さん(36)が、両親と9日間の北海道旅行をする一部始終が、ドキュメンタリー映画になった。呼吸器の電池が切れるなどトラブルもあったが、ボランティアに支えられてやり遂げ、達成感いっぱい表情が記録されている。5月2日、大阪市内で上映される。

ドキュメンタリー映画の完成を喜ぶ(右から)池田英樹さん、克美さん、神吉さん(兵庫県尼崎市で)



どうかでボランティア同士が口論する場面もカメラはとらえている。克美さんの誕生日には神吉さんら撮影スタッフ2人も含めて、全員でケーキを食べて祝った。

池田さんは「こんなによくしてもらったことはない。心に残る旅行ができた」とボランティアに感謝。同じ境遇の人を励ませるよう、心理カウンセラーを目指すという。「できなくなったことも多いけれど、できることもたくさんある。元気を

尼崎の男性、北海道に 映画化、あす上映

池田さんは会社員だった27歳のとき、自転車で出勤途中に車にはねられ、首から下が動かなくなった。入浴や排せつで人の手を借りるのは恥ずかしく、死にたいと思ったという。

それでも、故郷の熊本に戻る計画を中止して尼崎にパリアフリーの家を建て、床ずれができないようこまめに体を動かしてくれる父克美さん(71)と、足が悪く力のいる介護はできなくて

も、いつも話しかけてくれる母英子さん(71)を見て、「生きるのをあきらめたらあかん」と思い直した。

つけ、知り合いの映像作家、神吉良輔さん(36)が、行程を撮影することになった。

あげられる人になりたい」映画「生きていく」(85分)は大阪市浪速区のリハビリホールで行われる催し「映像のチカラ」障害者が地域へ発信」の中で、午後2時40分から上映。入場料1000円。問い合わせは、おおさか行動する障害者応援センター

2008年夏、池田さんは、お母さんが見たがっていた摩周湖を見に一緒に北海道へ行く」と計画。介護ヘルパー、看護師のボランティアと、運転手を見

る。車の振動で池田さんが首を痛めないよう枕代わりに右腕を差し入れるヘルパーや、呼吸器のバッテリーが切れて慌ててホテルに駆け込み、旅を続けるか

札幌や富良野など9か所を巡る。車の振動で池田さんが首を痛めないよう枕代わりに右腕を差し入れるヘルパーや、呼吸器のバッテリーが切れて慌ててホテルに駆け込み、旅を続けるか

か行動する障害者応援センター(06・6357・5797)。